

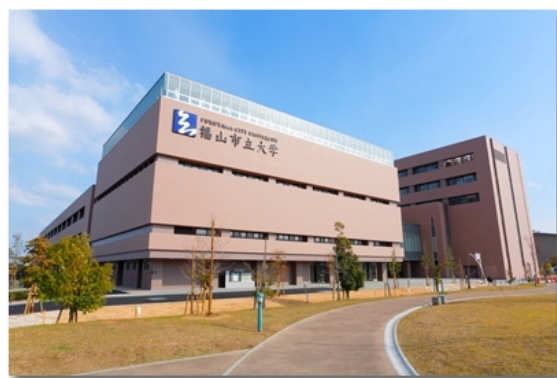
# 政務調査研究視察 報告書

視 察 日：平成23年10月5日（水）

視 察 地：広島県福山市

視察内容：

福山市立大学について



視 察 日：平成23年10月6日（木）・7日（金）

視 察 地：鹿児島県鹿児島市

視察内容：

第73回 全国都市問題会議



視察者：新海正春、蜂須賀喜久好、築瀬 太

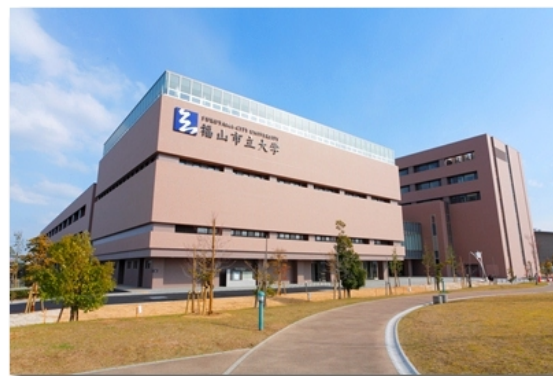
# 政務調査研究視察 報告書

報告者：築瀬 太

視 察 日	平成23年10月5日（水）
視 察 内 容	福山市立大学について
視 察 者	新海正春、蜂須賀喜久好、築瀬 太

## 福山市の概要

福山市は、広島県の東部、瀬戸内海に臨む人口約47万人の「中核市」の1つである。市の中心部には、城下町として350年栄えた歴史をもつ街並みとともに、戦災を経て「ばらのまち福山」として復興した市街地が、備後の交通拠点であるJR福山駅を中心に広がっている。沿岸部には世界最大級の製鉄所とともに、大規模な造船所、中国・韓国との定期コンテナ貨物船が発着する福山港等が立地している。沿岸部南端は古代より瀬戸内海を舞台とした漁業や海上交通の拠点として繁栄し、今日でも江戸時代の町並みが残る景勝地「鞆の浦」が全国に知られている。



## <福山市立大学の設置までの取り組み>

- 2006年2月 高等教育機関あり方検討会の中間報告
- 2006年4月 大学設置準備室を設置
- 2006年7月 市民等へのアンケート調査
- 2007年12月 大学設置基本構想を策定
- 2008年5月 大学設置準備委員会を設置
- 2009年11月 大学キャンパスの建設に着手
- 2010年3月 文部科学省に認可申請書を提出（基本構想の段階から事前協議）
- 2010年7月 オープンキャンパス（参加900人）
- 2010年10月 福山市立大学設置認可
- 2011年4月 福山市立大学 開学（4月4日入学式）

## <福山市立大学の概要>

福山市立大学は、大学の使命と教育研究の理念に基づき、持続可能な地域社会の発展に寄与する人材を育成することを目標としている。

設置する学部・学科は、教育学部と都市経営学部の2学部からなる男女共学の4年制大学で、学生総数は1,000人程度を予定している。

		100	400
	（ コース）	50	200
	（ コース）	50	200
		150	600

設置場所：広島県福山市港町二丁目（福山港内港地区）

敷地面積：約12,800平方メートル

福山市立大学のキャンパスは、福山市中心部にあるJR福山駅から南東へ約1.8kmの位置に整備する、地域に開かれた真新しい都市型キャンパスである。

周辺は幹線道路網が発達し、バス路線も多いため、通学にはとても便利な環境。

キャンパスの西側と南側には「福山みなと公園」が隣接して広がり、東側は道路を挟んで内港に隣接している。また、すぐ近くには福山市の文化施設「ふくやま芸術文化ホール（リーデンローズ）」や大規模商業施設が立地するなど、周囲3.0kmの範囲には企業・官公庁・公共施設等が多数立地しており、これらの都市の持つ機能全体を学びの場として活用し、実物に触れる体験型教育を実現している。

#### <入試の実施状況>

2010年12月 推薦、社会人等の選抜試験実施。(25人募集160人志願)

2011年2月 前期日程試験(募集175人、1202人志願)

2011年3月 後期日程試験(募集50人、1526人志願)

合計 募集人員250人、志願者2888人、倍率11.6倍

(学生のレベル確保のため、推薦は1割とする。地元枠はなし。)

#### <質疑応答>

Q: 文科省との協議の回数と認可においてたいへんだったところは?

A: 回数はわからないが2007年から毎月1回平均では文科省に行って協議している。教員の確保が一番たいへんであった。

Q: 都市型と言うことだが、用地の確保はどうであったか?

A: 内港を埋め立てた用地。県立公園の隣に確保。なお、短大はまだ2年生が在学中であり、短大とは全く別の場所に建設している。

Q: 建設費とその財源の内訳は?

A: 建設費は約50億円。一般財源から充当。国、県からの補助は無し。ただし、地方交付金の基準需要額には大学の運営費が算入されるため2億ほどは交付税が出る。



Q: 校舎以外の施設はどこにあるのか?

A: 市立であるので、グラウンドや球技場、プール等は市営の施設と共用でコストダウンを図っている。

Q: 学生の出身地域はどうなっているか?

A: 県内93人34.7% (うち市内45人17%) 岡山県53人20%  
思ったより市内が少なかった。

#### [感想・岡崎市への反映]

本市でも公立の4年制大学の設置を望む声は多く、市内の短大では4年制大学への変更を望んでいる学校もあり、同様のケースとしてたいへん参考になる事例である。

また、少子化傾向であるが故に、地域の人材を地域で育てる必要がある、との理由は、人材の流出を防ぐためにもなるほどどうなずけるところである。

ただし、建設費から維持管理運営費まで単独の私費負担は、なかなか厳しいところである。

しかし、地域の持続的な発展を図るためにも、地域の活性化や発展に寄与する教育研究拠点を形成していくことは、今後の本市にとっても重要な課題となるであろう。



## 政務調査研究視察 報告書

報告者：築瀬 太

視 察 日	平成23年10月6日(木)・7日(金)
視 察 内 容	第73回全国都市問題会議
視 察 者	新海正春、蜂須賀喜久好、築瀬 太

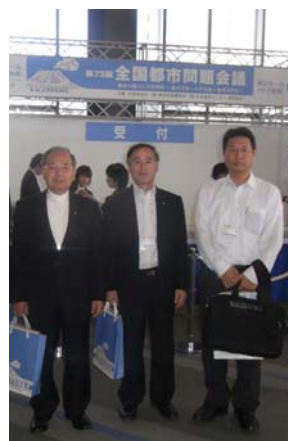
### < 第73回全国都市問題会議概要 >

#### 1. 主催者

【主催】全国市長会、(財)東京市政調査会、(財)日本都市センター、鹿児島市  
【協賛】(財)全国市長会館

#### 2. 開催日時

第1日 平成23年10月6日(木)  
午前9時30分開会  
第2日 平成23年10月7日(金)  
午前9時30分開会



#### 3. 開催場所

開催都市：鹿児島市  
会場：鹿児島市民文化ホール

#### 4. 議題

「都市の魅力と交流戦略～地域資源×公共交通＝地域活性化～」

#### 5. 会議の内容

第1日(10月6日) 特別講演、基調講演、主報告、一般報告  
第2日(10月7日) パネルディスカッション

### < 議題について >

今回のテーマは、「都市の魅力と交流戦略～地域資源×公共交通＝地域活性化～」である。

地域資源を最大限に生かして交流人口の増加を図り、賑わいと活力を生み出すことは、各都市の共通の課題となっているが、この課題の解決にあたっては、地域間及び地域内の移動手段となる公共交通は重要な要素であり、それを地域資源といかに組み合わせるかは、「交流戦略」の大きな柱である。

今回の会議では、そうした取組みを調査するとともに、市長及び学識経験者の方々の講演と報告、そしてパネルディスカッションを通じて、各都市の魅力ある地域資源の価値と活力向上のための戦略を考察していきたい。



## <第1日(10月6日) 特別講演、基調講演、主報告、一般報告>

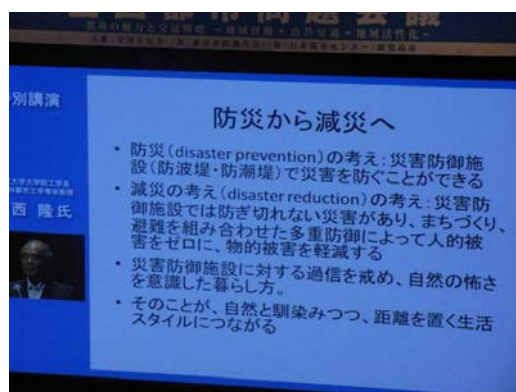
### 【特別講演】

#### 「3/11からの復興と安全なまちづくり」

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授 大西隆

#### 1、東日本大震災と減災思想

今回の津波の（そしておそらく原発災害についても）教訓として最も重要なことは、想定を超えた巨大な災害が発生する可能性は常にあり、それへの対処には、「減災」の考え方をもって当たるほかない。



#### 2、予防的な対策

減災の考え方に基づく対策

- ①防災施設の整備
- ②住宅の高台移転等の安全なまちづくり
- ③避難施設整備や避難訓練の徹底

#### 3、人の繋がりによる、防災力と自治体間の協力

自治体間の人材派遣を中心とした協力が、被災地と全国を結ぶ多様な連携と支援の輪を広げることに役立つように、被災地からの復興状況報告を適宜行って、復興への歩みを職員間だけではなく各地の市民とも共有していくことが必要であろう。これらが被災市町村の活動を支えることで、被災地主導の復興が可能となる。

### 【基調講演】

#### 九州新幹線とまちづくり

九州旅客鉄道株式会社代表取締役社長 唐池恒二

#### 1、九州新幹線（鹿児島ルート）

- ・第一期開業 2004年3月13日 新八代～鹿児島中央間
- ・全線開業 2011年3月12日 博多～鹿児島中央間
- ・全線開業効果を「タテ軸」から九州全域の「面」へ

#### 2、新博多駅ビル「JR博多シティ」

- ・2011年3月3日開業
- ・開発面積 22,000 m<sup>2</sup> 延床面積 200,000 m<sup>2</sup> 10F～B3F
- ・阪急百貨店、東急ハンズ、シネコン、専門店（約230店）
- ・「ハコ」から「エリア」へ

#### 3、都市の魅力の3要素

- ・安全・安心
- ・歩く楽しさ
- ・食とお土産

#### 4、まちづくりのポイント

- ・地域の共同体意識（ゆい）
- ・誠実
- ・おもてなしの心と表現



#### 5、まちづくりには「気」・・・「気」を満ち溢れさせるには

- ・スピードとキレのある動き
- ・明るく元気な声
- ・スキを見せない緊張感
- ・向上しよう、成長しようというどん欲さ

## 【主報告】

### 新幹線の開業効果をまちの力に —地域特性を生かした魅力づくりと情報発信—

鹿児島県鹿児島市長 森 博幸

#### 1、「第五次鹿児島市総合計画」における交流戦略

現在、鹿児島市では、来年度スタートする新たな総合計画「第五次鹿児島市総合計画」の策定に取り組んでいるが、これからの10年は、これまでの人口増加に伴う右肩上がりの成長を前提としたまちづくりから、人口減少に加え、少子高齢化による人口構成の変化を的確に見据えた都市戦略への大きな転換期になると想定される。

そこで、それぞれの都市の有する特性を活かした交流戦略によって活力を創出していくことが、今後さらに重要になる。

交流戦略において、交通機能は重要な要素の1つとなるものであるが、九州新幹線鹿児島ルートが開業し、本市を取り巻く時間地図は大きく様変わりすることとなった。



#### 2、新幹線全線開業を踏まえた取組

##### ・鹿児島市観光未来戦略の策定・推進

全線開業を5年後に控えた平成17年度、新幹線全線開業を見据え、行政・企業・市民など観光に関わるすべての人々の行動指針として「鹿児島市観光未来戦略」を策定した。「一味違う鹿児島」魅力多彩な国際観光都市の創造」を基本コンセプトに、「感動」魅力あふれる鹿児島の創造」など4つの基本方針と15の重点戦略を掲げ、今年度为目标年度として、官民一体となって各種取組を戦略的に推進してきている。



##### ・新幹線開業効果をまちの力に

観光未来戦略に基づくさまざまな取組を中心に、「自然・歴史×新幹線×多彩な都市内交通」「食×新幹線」といった、今回の議題に関連の深い地域資源と公共交通を組み合わせた取組事例について紹介があった。



## 【一般報告】

### 地域資源の観光資源化を成功に導く価値創造アプローチ

株式会社バリュー・クリエーション・サービス代表取締役  
株式会社リクルートじゃらんリサーチセンター客員研究員  
社団法人日田市観光協会事務局長 佐藤真一

#### 1、「カスタマー視点」×「メディア視点」の考え方

地域活性における観光振興のアプローチ手法として「カスタマー視点」で地域が潜在的に持つ価値を発見し、「メディア視点」でプロデュースするという考え方を基本としている。

組織運営の基本に「カスタマー視点」での価値創造を掲げ、事業運営の基本に「メディア視点」でのプロデュースを掲げ推進する。



#### 2、じゃらんリサーチセンターのGAP調査

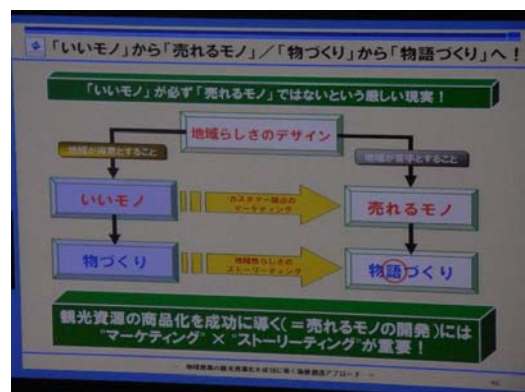
地域資源の観光資源化をサポートするツールとして「GAP調査」という手法を提供してきた。このGAP調査は、対象となる地域が有する自慢の地域資源を観光振興の対象とするエリアの方々に対して、「期待度×満足度」「認知度×関心度」という2つの切り口でアンケート調査を行い、多くの地域資源の中から観光資源化が可能なものを抽出することを目的としている。



#### 3、観光客を動かす2つの行動ソフト

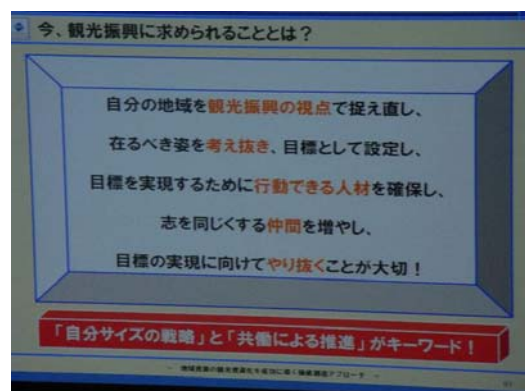
「情報」と「サービス」が行動ソフト。

1つめの「情報」は、その地域資源の本当の価値が観光客に正しく情報として伝えること。2つめの「サービス」は、商品としてのサービスレベルを上げ、期待度と満足度を一致させること。



#### 4、情報発信を科学する

情報デバイスの革新（デジタル化／ユビキタス化／インタラクティブ化など）により、情報の質&量に変化が起こっており、これからの時代は、情報発信における科学的アプローチがこれまで以上に成功の可否を決定づける。



#### 5、「自分サイズの戦略」×「共働による推進」

「自分サイズの戦略」とは、他地域の成功事例を単純にそのまま自分の地域に適用しても成功に導くことが難しいため、自分の地域に合わせたカスタマイズが必要という意味の言葉。「共働による推進」とは「自分サイズの戦略」を描き、実行に移す段階で「誰かがやる」のではなく「皆でやる」ことの重要性を説いた言葉。

## 【一般報告】

### 上田市の魅力づくりと地域活性化

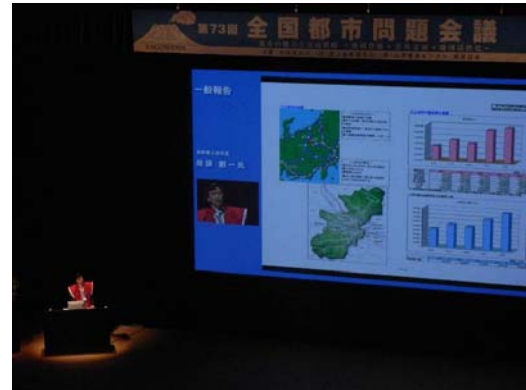
長野県上田市長 母袋創一

#### 1、まちづくりへの思い

私が理想とするまちのあるべき姿は、ひ・ふ・み「品格、風格そして魅力あるまち」である。

#### 2、魅力あるまちづくりに向けての戦略

観光をリーディング産業と位置づけ、「四季を通じた誘客」と「滞在型観光の推進」を念頭に、既存の観光資源を組み合わせ、付加価値をつけ、魅力アップを図ったり、地域に埋もれている資源を掘り起して、ブラッシュアップし、上田の新たな観光資源として全国にPRするなど、様々な取組をしてきた。



#### 3、上田フィルムコミッション

上田は、「屋根のないスタジオ」、「ロケのまち上田」として、信州上田フィルムコミッションが映画、ドラマ、CM、プロモーションビデオ等のロケーション撮影の支援を積極的に行っている。



#### 4、地方鉄道別所線の観光面での活用

別所線再生支援協議会を中心に「乗って残そう」をキーワードとし利用を促進。ラッピングした車両の運行やアニメ映画サマーウォーズ号の運行、細田守監督とのトークショーなどを行なった。

#### 5、新たな観光ブランドの創造

現在、戦国の英雄「真田幸村公」を主人公としたNHK大河ドラマの実現に向け、民・官協働で署名活動に取り組んでいる。



#### 6、まちの新たな魅力、価値の創造

上田地域には古くから文化・芸術活動の中心地として受け継がれてきた歴史・風土があり、これを後世に継承するとともに、併せて、文化芸術の力によるまちづくりに変化を起こす目論見の中で挑戦している。



## <第2日(10月7日) パネルディスカッション>

### 【パネルディスカッション】

コーディネーター                      NPO 法人地域力創造研究所理事長 佐藤喜子光

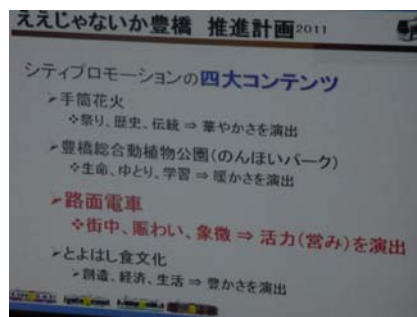
2日目はNPO 法人地域力創造研究所理事長の佐藤喜子光氏をコーディネーターにパネルディスカッションとして各パネラーからの発表がありました。



### 「豊橋の活性化と公共交通 ー市民の元気は「ほつトラム」からー」

愛知県豊橋市長 佐原光一

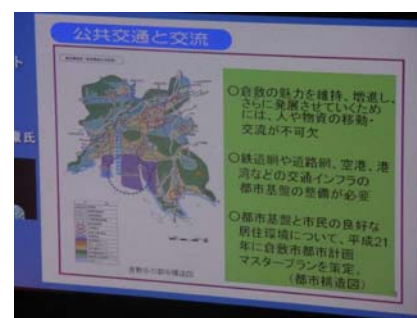
夏の「ビール電車」、冬の「おでん車」などの企画電車や10月の「豊橋まつり」にあわせた「花電車」など、シティプロモーションと路面電車について発表するとともに、「ほつトラム」の名称とともに機能強化に取り組んだとの報告があった。



### 「個性と魅力あふれるまち倉敷市」

岡山県倉敷市長 伊東香織

都市の魅力と交流について、「人的資源」「地域資源」「イベントなどの交流」のそれぞれ面から報告があり、公共交通と交流として、過去に大ブームとなったアンノン族をターゲットとしたトップセールスなどについて発表した。

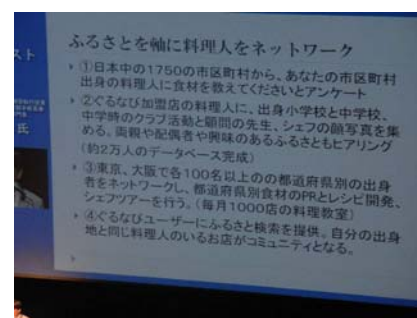


### 「ふるさとを軸とした地域活性」

株式会社ぐるなび取締役執行役員

営業本部本部長代行副本部長兼法人営業部部門長 溝上 宏

「味覚診断サイトべろメーター」「食文化は藩単位で形成」「ふるさとを軸に料理人をネットワーク」「地産他消」などをキーワードにウェブサイトからの地域活性「ふるさと応援プロモーション」などについて発表。



## 「本格的なハイモビリティ社会を迎えた九州」

シンクタンク・バードウイング(九州経済社会研究所)代表 鳥丸 聡

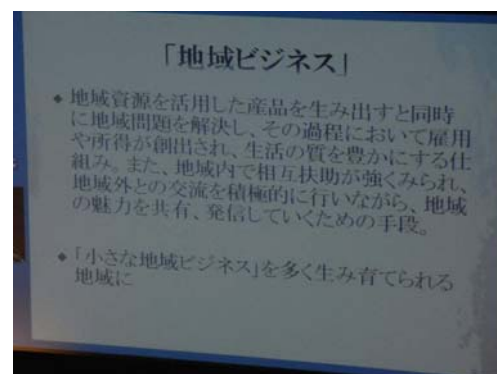
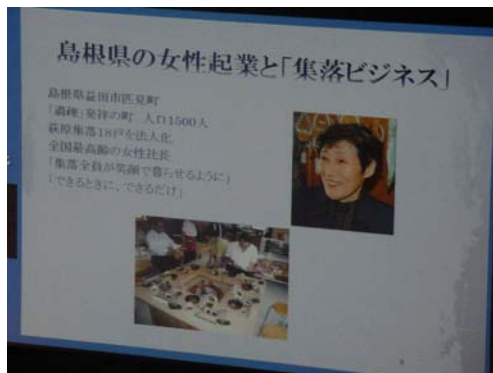
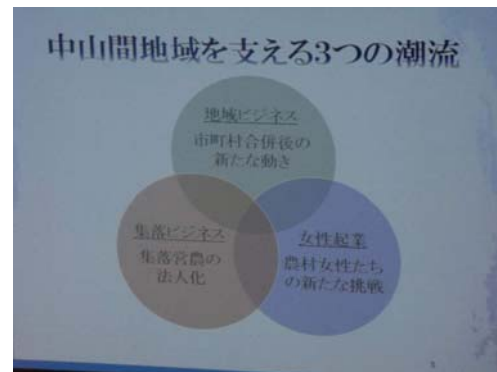
「20世紀の九州経済を支えた東西の縦軸」「九州クロスハイウェイ時代の幕開け」「成長の極から都市連携の軸へ」九州新幹線全線開業の意義について発表し、九州新幹線全線開業ブームを九州の「底力」にと提案。



## 「中山間地域の産業振興、農商工連携、交流戦略」

大阪市立大学大学院創造都市研究科准教授 松永桂子

「農」や「食」による地域ビジネス「農産物直売所」に「農産物加工場」と「農村レストラン」を加えた三つを、中山間地域における「地域再生の3点セット」として、その新たな可能性を島根県の女性起業と「集落ビジネス」の事例と共に発表した。



各パネラーからの発表に続き、「地域資源の発掘と商品化」「異文化交流手段としての公共交通の整備と利活用」「地域力創造を生む触媒としてのシステム」などについて、活発な意見交換があった。

### <おわりに>

本会議において地域資源と公共交通・情報通信技術について、それぞれの効果を掛け合わせて地域の活性化を図るための都市の魅力を生かした交流戦略の促進について考えてきた。

今回発表されてきたような多様な視点から、本市にふさわしい地域資源と公共交通・情報通信技術の組み合わせによる地域活性化について、さらに議論を深めてまいりたい。